

11月号

ハニ養だより



青森県立八戸第二養護学校
令和8年10月23日

「母校」

校長 西里 俊文

10月3日（土）、秋晴れの空のもと、本校体育館にて「卒業生の集い」が開催されました。

会場には開会前から笑顔が溢れ、久しぶりに再会した卒業生の皆さんは、お互いの近況を報告し合いながら楽しそうに会話を弾ませていました。市営バスに乗り合わせて元気にやってきた方、保護者の方とお越しになった方など、本当に多くの方々にご参加いただくことができました。また、保護者の皆様にとっても近況や思い出を語り合う貴重な機会となり、あちこちで温かい交流の輪が広がっていました。

歌人の俵万智さんの歌に、「なんでもない会話 なんでもない笑顔 なんでもないから ふるさとが好き」という一詠があります。卒業生の皆さんが笑顔で語り合う姿を見ていると、本校は単に学びを修めた場所であるだけでなく、いつでも安心して帰ってこられる心の「学びのふるさと」なのだと深く実感させられます。

集いの最後には、全員で心を一つにして校歌を斉唱しました。皆さんはブランクを感じさせないほど完璧に歌詞を覚えており、懐かしい歌声が体育館いっぱいに響き渡る素晴らしい大合唱となりました。

時代を超えて共に学んだ仲間が集い、語り合い、互いの活躍を喜び合える場所があることの尊さを、改めて心に刻んだ一日となりました。

本校は来年度より「八戸きぼう支援学校」へと校名が変わります。しかし、校名が変わっても、八戸第二養護学校として積み重ねてきた歩みと伝統は変わることがありません。これからも卒業生の皆さんやご家族がいつでも安心して集い、笑顔になれる母校であり続けられるよう、新たな歴史を紡いでまいります。

